

ディスペンセーション神学の本質を考える



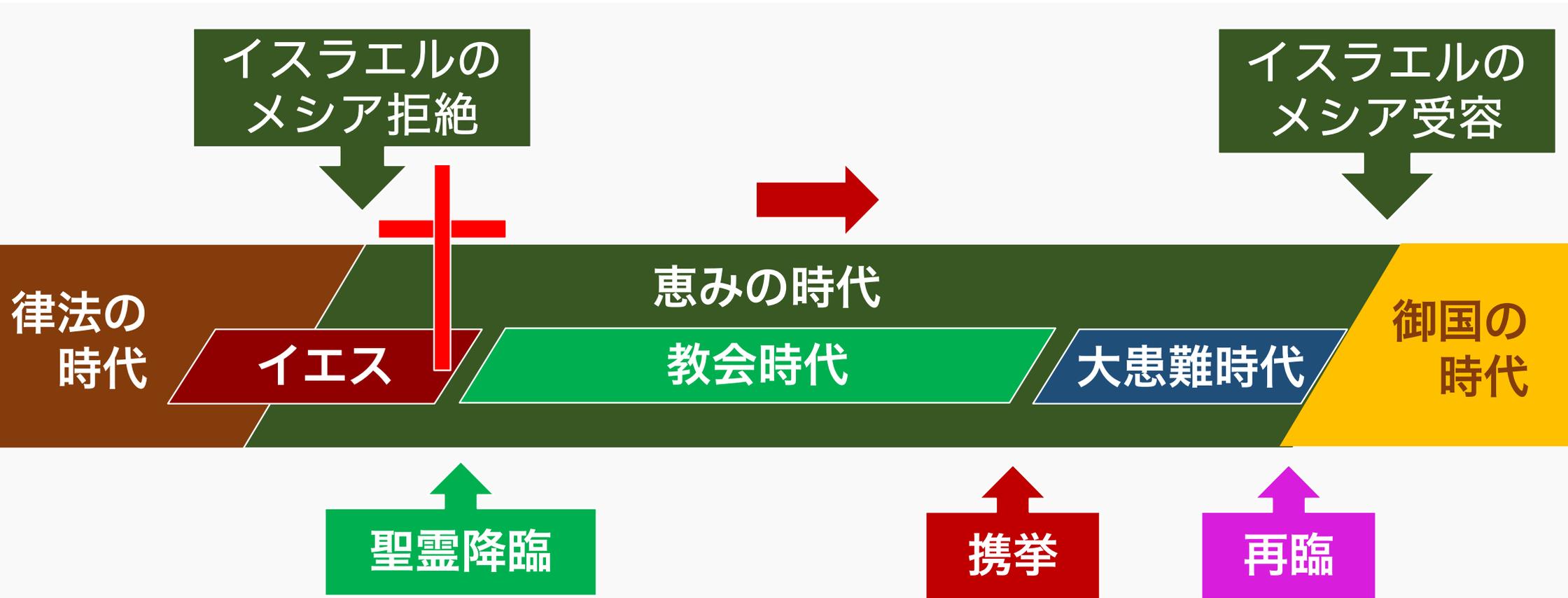
どの時代も
神の約束が礎にある

ディスペンセーション神学の本質を考える

- ディスペンセーション → 聖書を歴史的に区分して捕らえること。
- この歴史的区分・時代は、**神の契約**に基づく。
- 信仰者は、その時代の**神の契約**に従うことが求められる。
- 律法の時代には、**モーセの律法**に従うことが求められた。
- 今の恵みの時代には、**キリストの律法**に従うことが求められる。
キリストの律法 = キリストの教え + 聖霊が語らせた使徒の教え。

ディスペンセーション神学の本質を考える

- どの時代も、“ただ信仰と恵みによる” 救いの原則は変わらない。
信じるべきことは、その時代に啓示された、神の救いの約束。
- それぞれの時代には、設定された**ゴール**、**信者の使命**がある。
- 律法の時代の**ゴール**は、メシアの初臨と十字架の贖いの成就。
信者の使命は、律法に従い、メシアを信じること(待望すること)。
- 恵みの時代の**ゴール**は、メシアの再臨。千年王国の設立。
信者の使命は、キリストの律法に従い、メシアの福音を告げること。



■ 恵みの時代の中心が、キリストの体・普遍的教会の成長 (**教会時代**)
福音を信じた者は、**普遍的教会**の一部とされていく。
真の信者が主イエスのもとに挙げられる「**携挙**」が、教会のゴール。

ディスペンセーション神学に基づく今の時代の歩み方

- 一つの時代の始まりからゴールまで、使命はまったく変わらない。
- 世の終わりが近づくほどに、闇は増す。時代は混迷を深めて行く。でも、何があろうとなかろうと、この時代のなすべき使命は変わらない。
- 私たちの心得るべきことは、ペテロ、パウロとまったく同じ。
→主イエスのもとに挙げられる瞬間まで、**福音**を告げ知らせること。
- パウロは、闇の深まるローマで、「何の妨げもなく」福音を述べ伝えた。教会時代の続く限り、必要は満たされ、福音宣教の機会是与えられる。

時代の状況に左右されず、ただ福音宣教の使命に生きよう

3
一口毛一
聖徒伝 109

「聞く心を 養おう」

列王記第一 3～4章

知恵の王ソロモン

アウトライン

0. イントロダクション

I. ソロモンの願い 3章1～15節

II. ソロモンの知恵 3章16～28節

III. ソロモンの繁栄 4章

IV. まとめと適用

主に聞く心を養おう



神殿の丘



【無垢の時代】

天地創造

【良心の時代】

墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】

バベルの塔事件

【約束の時代】

アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】

イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】

聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】

千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

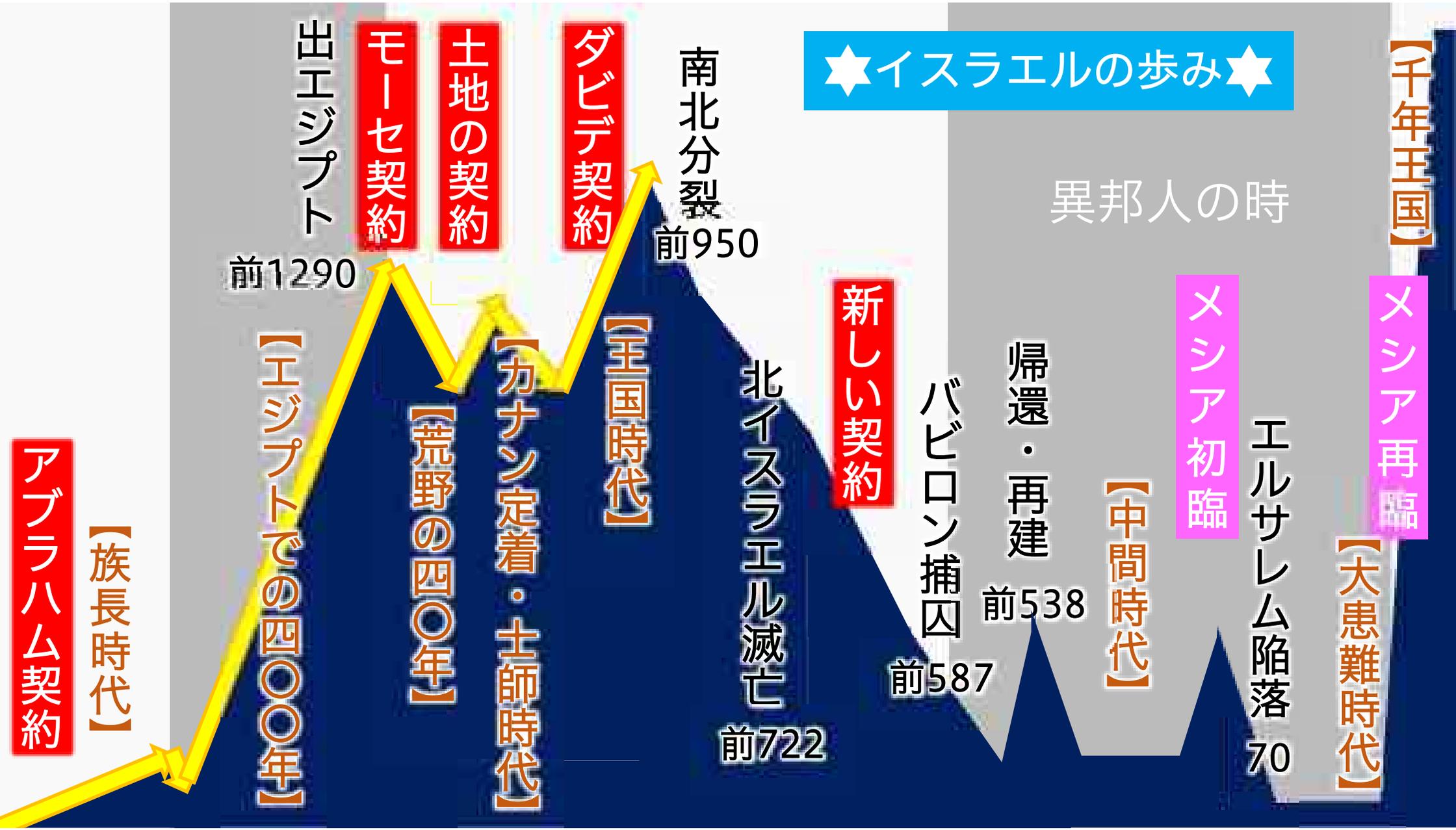
どの時代も
神の約束が礎にある

過去

現在

未来

★イスラエルの歩み★



異邦人の時

【千年王国】

メシア再臨

【大患難時代】

エルサレム陥落 70

メシア初臨

【中間時代】

帰還・再建 前538

バビロン捕囚 前587

新しい契約

北イスラエル滅亡 前722

南北分裂 前950

【王国時代】

ダビデ契約

【カナン定着・士師時代】

土地の契約

【荒野の四〇年】

モーセ契約

【エジプトでの四〇〇年】

出エジプト 前1290

【族長時代】

アブラハム契約

列王記 (第一〜第二)

第一	1〜11章	ソロモン王の治世 神殿建築	イスラエル(統一王国)		
	12〜16章	王国の分裂	ユダ(南王国)	イスラエル(北王国)	
第二	17〜22章	預言者エリヤ	レハブアム アビヤム アサ ヨシャパテ ヨラム アハズヤ アタルヤ ヨアシュ アマツヤ ウジヤ ヨタム アハズ ヒゼキヤ マナセ アモン ヨシヤ エホアハズ エホヤキム エホヤキン ゼデキヤ	オバデヤ ヨエル イザヤ ミカ エレミヤ エゼキエル	ヤロブアム…ナダブ バシャ…エラ ジムリ オムリ…オムリ…アハブ …アハズヤ…ヨラム エフー…エホアハズ …ヨアシュ …ヤロブアムII …ゼカリヤ シャルム メナヘム ベカフヤ ベカ ホセア
	1〜2章			エリヤ エリシャ アモス ヨナ	
	2〜13章	預言者エリシャ		ホセア	
	14〜17章	二つの王国の歴史 北王国滅亡まで			
	18〜25章	ユダ王国の歴史 滅亡まで			

★北王国は10王朝に19人の王
★南王国は1王朝に20人の王

即位	1章	アドニヤの謀反 ナタンの忠告 動いたダビデ ソロモンの即位
基盤固め	2章	ダビデの遺言・死 アドニヤの陰謀・死 ヨアブの死 シムイの処刑
知恵	3章	ギブオンでのいけにえ 神の応答 ソロモンの願い ソロモンの裁き
繁栄	4章	ソロモンの政権 行政区 王国の繁栄 ソロモンの知恵
神殿建設	5～8章	職人、労働者 神殿の構造 祭具の構造 神殿の完成 神殿奉獻
名声	9～10章	ソロモンへの神の約束 建設事業 その他の業績 シェバの女王 栄華
背教と死	11章	ソロモンの背教 神の裁き 外的の出現 内的の台頭 ソロモンの死

イスラエルの王の系譜

サウル～ダビデ～ソロモン

- 神の時ではなかったが、民の希望で立てられたのが、**サウル王**。主に背き、王権を剥奪され、苦闘の末、ペリシテ人に討たれた。
- 羊飼いいエッサイの8番目の子**ダビデ**を、神は王に定め油注いだ。武勇で名を馳せるが、**サウル**に嫉まれ、荒野で逃亡生活を送った。
- **サウル**亡き後、王となった**ダビデ**は、周辺国を平定。**エルサレム**を都とし、**神殿**の設計図を記し、建材を準備した。
- 衰えた**ダビデ**の隙を突いて四男**アドニヤ**が王座を狙ったが、陰謀を知った**ダビデ**は奮い立ち、ただちに**ソロモン**を即位させた。**ソロモン**は、敵の謀略を知恵をもって退け、王権を確立させた。



I. ソロモンの願い

I 列王記3章1～15章

後代に作られたダビデの墓

【ファラオの娘をめとる】 | 列王記3:1～2

ソロモンはエジプトの王ファラオと姻戚の関係を結んだ。彼は**ファラオの娘をめとり***、ダビデの町に連れて来て、自分の家と【主】の家、およびエルサレムの周りの城壁を築き終えるまで、そこにとどまらせた。

当時はまだ、【主】の御名のために家が建てられていなかったなので、民はただ、高き所でいけにえを献げていた。

***エジプトとの政略結婚。**

■南の大国エジプトとの和平。政治判断としては優れていたのだろうが…。この方針が命取りに。



【ソロモンのささげもの】 | 列王記3:3~5

ソロモンは【主】を愛し、父ダビデの掟に歩んでいた。ただし、彼は高き所*でいけにえを献げ、香をたいていた

王はいけにえを献げようとギブオン*へ行った。そこが最も重要な高き所だったからである。ソロモンはその祭壇の上で千匹の全焼のささげ物を献げた。

ギブオンで【主】は夜の夢のうちにソロモンに現れた。神は仰せられた。「あなたに何を与えようか。願え。」

*後に偶像の祭壇が築かれ、偶像礼拝の象徴に。

*幕屋と祭壇があった(Ⅰ歴21:29)。契約の箱は都。

ギブオン人の地。イスラエルとユダの戦場(Ⅱサム2章)



【へりくだる王】 | 列王記3:6~7

ソロモンは言った。「あなたは、あなたのしもべ、私の父ダビデに大いなる恵みを施されました。父があなたに対し真実と正義と真心をもって、あなたの御前に歩んだからです。あなたはこの大いなる恵みを父のために保ち、今日のように、その王座に着いている子を彼にお与えになりました。

わが神、【主】よ。今あなたは私の父ダビデに代わって、このしもべを王とされました。しかし私は小さな子どもで、出入りする術*を知りません。」

*ふるまい(新共)。右も左もわきまえない(LB)



王に与えられた
すべては恵み

【ソロモンの願い】 | 列王記3:8~9

そのうえ、しもべは、あなたが選んだあなたの民の中にいます。あまりにも多くて、数えることも調べることもできないほど大勢の民です。

善悪を判断してあなたの民をさばくために、**聞き分ける心***をしもべに与えてください。さもなければ、だれに、この大勢のあなたの民をさばくことができるでしょうか。」

*“聞く心”

■ ソロモンが願ったのは、第一に主の御声を聴き、そして人々の声を聴くための“聞き分ける心”



【神の応答】 I 列王記3:10~12

これは主のみこころにかなった。

ソロモンがこのことを願ったからである。

神は彼に仰せられた。「あなたがこのことを願い、自分のために長寿を願わず、自分のために富を願わず、あなたの敵のいのちさえ願わず、むしろ、自分のために正しい訴えを聞き分ける判断力を願ったので、

見よ、わたしはあなたが言ったとおりにする。見よ。わたしはあなたに、知恵と判断の心を与える。あなたより前に、あなたのような者はなく、あなたの後に、あなたのような者は起こらない。」

■ ソロモンが求めたのは、王の務めを果たすための力。

知恵のソロモンは
主の知恵を求めた



【増し加えられた主の恵み】 | 列王記3:13~15

そのうえ、あなたが願わなかったもの、富と誉れもあなたに与える。あなたが生きていくかぎり、王たちの中であなたに並ぶ者は一人もいない。

■主の御心に適うことを願い求めたソロモンは、富と誉れをも加えて与えられた。

「マタイ 6:33 まず神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはすべて、それに加えて与えられます。」

➔主を正しく求めれば、必要は満たされ尽くす。



【主の命令と約束】 | 列王記3:14~15

また、あなたの父ダビデが歩んだように、あなたもわたしの掟と命令*を守ってわたしの道に歩むなら、あなたの日々を長くしよう。」

ソロモンが目を覚ますと、見よ、それは夢であった。彼はエルサレムに行き、主の契約の箱の前に立って、全焼のささげ物を献げ、交わりのいけにえを献げ、すべての家来たちのために祝宴を開いた。

*モーセの律法 → 守れば祝福。破れば呪い。

ダビデ契約 → 個々の王に対しては、一つ条件が。
主に従えば王の系譜を子孫も継ぐ。





II. ソロモンの知恵

I 列王記3章16～28章

後代に作られたダビデの墓

【持ち込まれた難問】 | 列王記3:16~18

そのころ、二人の遊女が王のところに来て*、その前に立った。

その一人が言った。「わが君、お願いがございます。実は、私とこの女とは同じ家に住んでいますが、私はこの女と一緒に家にいるとき、子を産みました。

私の子を産んで三日たつと、この女も子を産みました。家には私たちのほか、だれも一緒にいた者はなく、私たち二人だけが家にいました。」

*解決できない難問が、王のところまで上がってきた。



【最初の女の訴え】 | 列王記3:19～21

ところが、夜の中に、この女の産んだ子が死にました。この女が自分の子の上に伏したからです。

この女は夜中に起きて、このはしためが眠っている間に、私のそばから私の子を取って自分の懐に寝かせ、死んだ自分の子を私の懐に寝かせました。

朝、私が子どもに乳を飲ませようとして起きると、どうでしょう、その子は死んでいるではありませんか。朝、その子をよく見てみると、なんとまあ、その子は私が産んだ子ではありませんでした。」



【もう一人の女の訴え】 | 列王記3:22～23

すると、もう一人の女が言った。「いいえ、生きているのが私の子で、死んでいるのがあなたの子です。」先の女は言った。「いいえ、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子です。」女たちは王の前で言い合った。

そこで王は言った。「一人は『生きているのが私の子で、死んだのがあなたの子だ』と言い、また、もう一人は『いや、死んだのがあなたの子で、生きているのが私の子だ』と言う。」



【】 | 列王記3:24～25

王が「剣をここに持って来なさい」と言ったので、
剣が王の前に差し出された。

王は言った。「生きている子を二つに切り分け、
半分をこちらに、もう半分をそちらに与えよ。」



【二人の女の】 | 列王記3:26

すると生きている子の母親は、自分の子を哀れに思って胸が熱くなり、王に申し立てて言った。

「わが君、お願いです。どうか、その生きている子をあの女にお与えください。決してその子を殺さないでください。」

しかしもう一人の女は、「それを私のものにも、あなたのものにもしないで、断ち切ってください」と言った。

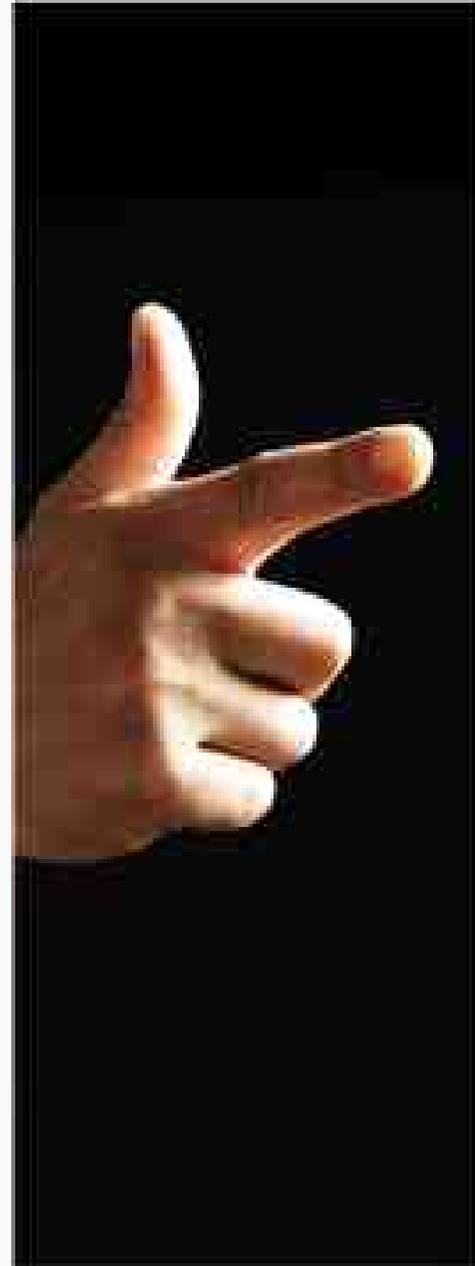


【王の宣告】 | 列王記3:27~28

そこで王は宣告を下して言った。「生きている子を初めのほうの女に与えよ。決してその子を殺してはならない。彼女がその子の母親である。」

全イスラエルは、王が下したさばきを聞いて、**王を恐れた**。神の知恵が彼のうちにあって、さばきをするのを見たからである。

- 主の霊が、ソロモンを通して主の知恵を示され、主の霊によって、民は、主への畏れを覚えた。



【ソロモン王の裁きの本質を考える】

- このケース最大の問題は、証人がいないこと。出生時期もほぼ同じ。判断基準が何もない。
- 切り分けよという命令が、真実を引き出した。
→ 試されたのは、**母親の愛情**。
- この子を**真に愛する者**に、母親の資格を認める。結果が血縁と違ってても問題ではなかっただろう。

神の知恵は、逃れようなく**真実の愛**を見極める



民が畏れた
神の知恵

III. ソロモンの繁栄

I 列王記4章



朝日に照らされるエルサレム旧市街

【ソロモンの高官たち】 | 列王記4:1

こうして、ソロモン王は全イスラエルの王となった。

彼の高官たちは次のとおり。ツアドクの子アザルヤは祭司、シシャの子たちのエリホレフとアヒヤは書記、アヒルデの子ヨシャファテは史官、エホヤダの子ベナヤは軍団長、ツアドクとエブヤタルは祭司、ナタンの子アザルヤは政務長官、ナタンの子ザブデは祭司で王の友、アヒシャルは宮廷長官、アブダの子アドニラムは役務長官。

■ 主な高官たちの名が、重職から順に記載。

➡ 祭司、文官が重視。平和の王の政権ゆえ。



ソロモンの高官たち

祭司	ツアドクの子アザルヤ ナタンの子ザブデ	ツアドク エブヤタル*
書記	エリホヘフ アヒヤ	内政、外交に関する勅令を発布
史官	アヒルデの子ヨシャファテ	書記の補佐。王国の歴史の記録。
軍団長	エホヤダの子ベナヤ	将軍
財務長官	ナタンの子アザルヤ	ダビデが重用した預言者ナタンの子
宮廷長官	アヒシャル	宮殿建設に貢献(7章)
役務長官	アブダの子アドニラム	ソロモンの死後、レハブアム王に派遣され、民に殺される。(12:18)

【十二人の守護】 | 列王記4:7

ソロモンは、イスラエル全土に十二人の守護*を置いた。彼らは王とその一族に食糧を納めた。一年に一か月分の食糧を各自が納めることになっていたのである。

*守護 …12部族の長とは別。

■ソロモンはあえて12部族の領地は異なる形で、12の行政区を設定。部族間の融和を図ったのだろう。



【繁栄】 | 列王記4:20～21

ユダとイスラエルの人々は海辺の砂のように多くなり、食べたり飲んだりして、楽しんでいた。

ソロモンは、あの大河からペリシテ人の地、さらにエジプトの国境に至る、すべての王国を支配した。これらの王国は、ソロモンの一生の間、貢ぎ物を持って来て彼に仕えた。

■ アブラハム契約の子孫の繁栄と土地の授与。かなりの部分が成就。

ソロモンの勢力図



【宮殿の栄華】 | 列王記4:22～24

ソロモンの一か日の食糧は、上質の小麦粉三十コル(6900 ℓ)、小麦粉六十コル(12800 ℓ)。それに、肥えた牛十頭、放牧の牛二十頭、羊百匹。そのほか、雄鹿、かもしか、のろ鹿、そして肥えた鳥であった。

これはソロモンが、あの大河の西側、ティフサフからガザまでの全土、すなわち大河の西側のすべての王たちを支配し、周辺のすべての地方に平和があったからである。

■ ソロモンの宮殿に1万～3万の人々がいた。



【繁栄の影で】 Ⅰ列王記4:25～27

ユダとイスラエルは、ソロモンの治世中、ダンからベエル・シェバに至るまでのどこでも、それぞれ自分のぶどうの木の下や、いちじくの木の下で安心して暮らした。

ソロモンは、戦車用の馬のために馬屋四万、騎兵一万二千を持っていた。

- 平和と繁栄を謳歌した一方で…。
- 馬を増やすこと(軍事力の過度な増強)は、律法で禁じられていた。(申17:14～20)



【忠実な守護たち】 | 列王記4:27~28

守護たちはそれぞれ自分の当番月に、ソロモン王、およびソロモン王の食卓に連なるすべての者たちのために食糧を納め、不足させなかった。

また彼らは、引き馬や早馬*のために、それぞれ割り当てにしたがって、所定の場所に大麦と藁を持って来た。

- *道路網が整備され、各地に拠点が設けられ、馬による重要物資の搬送、情報伝達が実施。
- 馬は高価だが、圧倒的に速度は速い。



【ソロモン王の知恵】 | 列王記4:29~31

神は、ソロモンに非常に豊かな知恵と英知と、海辺の砂浜のように広い心を与えられた。

ソロモンの知恵は、東のすべての人々の知恵と、エジプト人のすべての知恵にまさっていた。

彼は、どの人よりも、すなわち、エズラフ人エタンや、マホルの息子たちのヘマン、カルコル、ダルダよりも知恵があった。そのため、彼の名声は周辺のすべての国々に広まった。

■ 当時の世界で知られていたどの賢人たちよりも勝るソロモンの知恵が、広く知られていた。



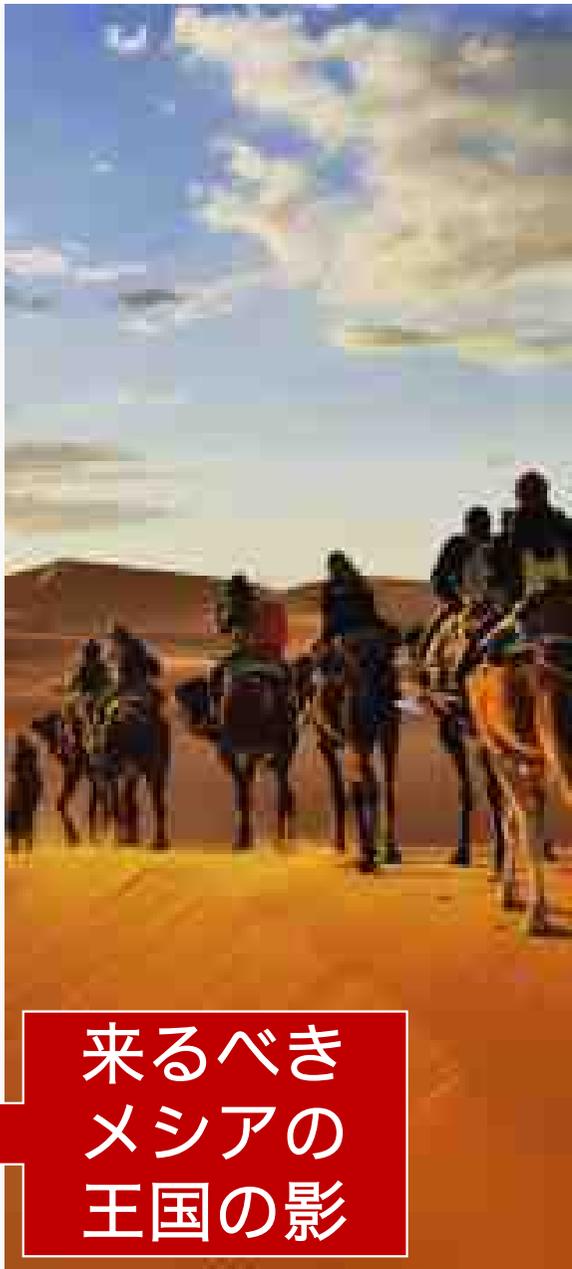
【ソロモン王の知恵】 | 列王記4:32～34

ソロモンは三千の箴言を語り、彼の歌は千五首もあった。

彼は、レバノンにある杉の木から、石垣に生えるヒソプに至るまでの草木について語り、獣、鳥、這うもの、そして魚についても語った。

彼の知恵のうわさを聞いた世界のすべての王たちのもとから、あらゆる国の人々が、ソロモンの知恵を聞くためにやって来た。

■ 文才、詩才、博識…。多方面に及んだソロモンの知恵を求め、多くの国々から来訪者が!!



来るべき
メシアの
王国の影



IV. まとめと適用 主に聞く力を養おう

オリーブ山に昇る朝日

【ソロモン王が主に求めた神の知恵】

- ソロモンが主に求めたのは、神の民を治めるための神の知恵。
➔ イスラエルを治めるのは主ご自身。王に必要なのは主の御心。
御心に適う願いに対し、主はソロモンに祝福を増し加えられた。
- 神の子とされた私たち求められるのは、御声を“聞く心”
- 自分自身を沈黙させなければ、聞くことはできない。
一方的にしゃべりまくるだけの祈りは、本当の祈りだろうか？

主の前に心静めて主に聞く時が、信仰者には求められる

【打ち砕かれてへりくだり、聞く心を求めたソロモン】

- ダビデに「知恵の人」と呼ばれていたソロモン。
聞く心を人並み以上に身につけながら、なお主に求めた。
- 主の前では、王である自分も幼子にすぎないと告白したソロモン。
肉親をも巻き込む激しい政争、孤独が彼を打ちのめしていたか。
- 自分自身の無力さを思い知らされ、ソロモンはただ主を求めた。
神への畏れ、神の前でのへりくだりが、信仰者には求められる。

心打ち砕かれきった時、はじめて聞こえる主のささやきがある

【知恵ある人となるために、意識して、聞く心を養おう】

- 世で私たちが自然に身につけるのは、**自己主張**ばかり。
祈りすら、神と人への**自己主張**になってはいないだろうか。
- 聞く心は、意識して**訓練**しなければ身につかないと心得よう。
信仰者には、**日々の中で心静めて主に聞く時**が、求められる。
→ **デボーション**の大切さは、強調してもしすぎることはない。
- 主の御声を**聞く心**が養われていけば、人の声も聞こえてくる。
聞く心として培われた信仰は、世を生きる知恵ともなるだろう。

主に聞く心の、世に対する適用が、人の知恵だと心得よう。

【信仰の本質とは、主に聞き、従う、その心】

- 聞く心が不足した信仰は、たやすく独善に陥り、道を外れてしまう。大変だと騒ぐ暇があったら、心を静めて主に聴こう。
- そして、主に聴きとったことは、必ず行動に起こすこと。行動しないなら、詭弁を弄する愚かさだけが強化されていく。
- 知恵の本質は、神への恐れ、謙遜。御心を知れば、打ち碎かれる。打ち碎かれ静まった心に、主の知恵と判断する力が与えられる。

絶えず主に聴き、自分の心を見張っていよう。主の知恵を養おう

■ ソロモンの箴言4章20～27節 ■

4:20 わが子よ、注意して**私のことば**を聞け。

私の言うことに耳を傾けよ。

4:21 **それら**を見失うな。自分の心のただ中に保て。

4:22 **それら**は、見出す者にとっていのちとなり、
全身の癒やしとなるからだ。

4:23 何を見張るよりも、あなたの心を見守れ。

いのちの泉は**これ**から湧く。

■ ソロモンの箴言4章20～27節 ■

4:24 曲がったことを言う口を あなたから取り除き、
ゆがんだことを言う唇を あなたから遠ざけよ。

4:25 あなたの目が前方を見つめ、
まぶたがまっすぐ前を向くようにせよ。

4:26 あなたの足の道筋に心を向けよ。
そうすれば、あなたのすべての道は堅く定まる。

4:27 右にも左にもそれてはならない。
あなたの足を悪から遠ざけよ。

- 「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、
- ①わたしの罪(つみ)を贖(あがなう)うために十字架で死に、
 - ②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、
 - ③三日目に復活(ふっかつ)したことを信じます。

ソロモンのように、主の前にへりくだります。

どうか、主に聞く心を与えてください。

主の知恵(ちえ)をもって、主イエスの証し人(あかしびと)として、世に遣(つか)わされていくことができますように。

主のみ言葉をますます慕(した)い求(もと)め、わたしの内に主によって判断(はんだん)する力が養(やしな)われますように。主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」